

試験場の研究部紹介

野菜花き試験場 野菜部

野菜花き試験場野菜部では、野菜の生産安定に関する試験研究を行っています。ここでは、現在、重点的に取り組んでいる課題について紹介します。

●葉野菜類では、レタス、はくさい、キャベツ、ブロッコリー、セルリーなどについて、持続的に安定生産するうえで問題となっている栽培上の課題を解決するため、原因の究明と対策技術の開発に取り組んでいます。

レタスやセルリーで課題となっている生理障害は気温、土壌水分、作型、品種など様々な要因が複合的に重なって発生することが多く、解決するためには多方面からの要因解析が必要です。現地の発生実態を把握し、場内での再現試験により原因を解明し、対策技術の開発に繋げていきます。

近年増加している加工・業務用野菜について、キャベツやブロッコリーを中心に新たな栽培法として技術開発に取り組んでいます。特にブロッコリーでは従来の青果用より花蕾を大きくしてから収穫し、フローレット状にして出荷することにより生産性を向上させる生産技術開発について国研等と共同して取り組んでいます。

また、水田転作品目として野菜の導入を見据え、白ねぎについて適品種の選定や作期拡大についての検討を行っています。



ブロッコリー大型花蕾収穫



フローレットにカットして流通

●野菜の栽培作業省力化・軽労化のため、各種機械利用技術や作業の負担を軽減する栽培法の開発に取り組んでいます。

現在、県内企業と共同でレタス収穫機を開発、実証しています。また、収穫機に適するレタス全面マルチ栽培方法の開発や、レタス機械一貫栽培体系の構築を検討しています。



共同で開発中のレタス収穫機

●果菜類については、トマト、いちご、きゅうりなどについて試験しています。

トマトでは夏季の高温対策による夏秋どり長期一作作型の確立を目指し、細霧冷房、CO₂局所施用、強勢台木利用の組合せによる、昇温抑制や草勢維持による生産安定技術の確立に取り組んでいます。また、大玉トマト（土耕栽培）やミニトマトにおける強勢台木の有効性についても検討しています。

いちごでは当場が育成した夏秋どりいちご新品種「サマーリリカル（長・野 53 号）」の栽培マニュアル作成を目指して栽培管理技術の確立に取り組むとともに、寒冷地に適した促成いちごの品種選定や省エネ資材の効果確認などを実施しています。

きゅうりでは当場が開発した養液栽培システム「ハンモックベンチ吸い戻し式」のハウス夏秋どり栽培、半促成栽培、抑制栽培への適応性の検討の他、各作型に適した品種選定や仕立て方法の検討などを行っています。



二流体方式による細霧冷房



きゅうりのハンモックベンチ養液栽培

●県内のアスパラガス栽培では排水性の不良などに起因する湿害や土壌病害による生産力低下が問題となっています。その解決とともに、栽培管理の省力化、軽労化と安定生産、多収を実現する新たな栽培法として柵板式高畝栽培の開発を行っています。

この栽培法では、柵板と客土を利用して高畝とすることで排水不良や土壌病害が問題となるほ場でも根域を確保でき、安定生産が期待されます。また、収穫作業や管理作業を腰をかがめずに行うことができ、作業姿勢が改善されます。

本栽培法において更なる収量性の向上を実証するとともに、露地栽培が主体の産地においても導入しやすい栽培技術の開発を行い、県内での実用化を目指します。



アスパラガス柵板式高畝栽培の試験ほ場の様子
(左：パイプハウスでの栽培試験、右：露地ほ場での栽培試験)

担当者	山田 和義	電話番号	0263-52-1148
-----	-------	------	--------------